

但馬長寿の郷 すこやかセンター通信

目次

- 1 国際福祉機器展に参加してきました！！
- 2 捨て目
- 3 すこやかセンター散歩く介護予防のコーナーく
- 4 お知らせのコーナーく介護報酬改定についてく



1. 国際福祉機器展に参加してきました！！

9月27日～29日に東京で開催された日本最大級の福祉用具展示会『国際福祉機器展 HCR2017』に参加しました。新作の用具がたくさんあり、実際に手にとって触り、体験ができました。

現在、介護ロボットの開発が進んでいますが、今日新たに介護ロボットのポータブルトイレが展示されていました。ボタンを押すと排泄物をラップに自動で包んでくれるため、臭いがでにくいことや後始末が楽に行えます。

また、最近の福祉用具には、お洒落なものが増えています。特に靴、杖、シルバーカーなど、外出支援のための福祉用具は華やかなものも多く出ていました。今までは用具の機能ばかりが注目されていましたが、利用者の好みや価値観が反映されてきたのではないかなと思います。

今回の展示会で見た用具を元にすこやかセンターの展示品も年2回見直しています。新しい用具も入っているのでぜひ、見学におこしください。

興味のある方は、東京や大阪で開催される展示会に参加してはいかがでしょうか？

作業療法士 中野 裕貴



2. 捨て目

「見てゐる」のに「記憶がない」

先日、小学校6年生の娘を連れて家族でUSJに行ってきた。平日の朝一番だったこともあり、一切待つことなく2つのアトラクションに乗れたのですが、すぐに人が増え、あっという間に何にも乗れなくなりました。

疲れ果ててレストランで一服していると、パレードが始まりました。次から次へと華やかなダンサーやキヤラクターが通り過ぎます。子どもは踊りながら手を振っています。私はその後ろでダンサーに手を振ったり、踊ったり、スマホのカメラで写真を撮ったり、大忙し。

あっという間にパレードも終わり、レストランに戻って娘とパレードの話をしてると、「パレードの一番前でアリスちゃんが手を振ってくれたよ」と娘。

「ん?」「不思議の国のアリスってディズニーじゃなかった?」と私。

「違うよ、広瀬すずちゃんとアリスちゃんが先頭について、手を振ってくれていたじゃない」と娘。

「えええっ!マジで、すずちゃんとアリスちゃん乗ってたか? 全然見てないよ。本当に?」「そうだ、写真を見てみよう」とスマホを確認すると二人が写っているではありませんか。私は誰に向かって手を振っていたのでしょうか。

確かに見ていたし、手を振っていたのですが、全然認識していない。だから全然記憶にないのです。「見てゐる」はずが「記憶がない」不思議で悔しい体験でした。我々は、目でモノを見ていません。目はあくまでもレンズです。モノを見ているのは脳です。脳が認識しなければ意識できないし、記憶にも残らない。何も無かったのと同じです。さらに情報が多すぎると見逃しも多くなります。

我々の仕事でも意識して見る「観察」がとても大切ですが、「何でもかんでも観察する」事は難しいです。そこで、テーマを決めて見てみてください。「今日は利用者の表情を見てみよう」とか、「食欲を見てみよう」とか「皮膚の状態を見てみよう」とか。

誰の何に注目するのかを決めて観察してみてください。今まで気づかなかつたことに気づくはずですよ。

今回の捨て目は、「見えていても脳は認識していない。テーマを決めて観察しよう」です。

ズン・ズン・ズン・ズン・ズン・ズン・ズン・ズン

理学療法士 小森 昌彦



3. すこやかセンター散歩

介護予防のコーナー

今回は介護予防コーナーの紹介です。現在、12点の介護予防に関する用具を展示しています。

介護予防とは、『要介護状態になることを防ぐこと』、また『介護が必要になっても今の状態が悪化しないようにすること』、改善すること』が目的です。いつまでも元気で長生きするためには介護予防が大切です。

現時点で介護予防に必要な要素は「運動」「栄養」「社会参加」と言われています。すこやかセンターでは「運動」に着目した用具を中心に展示しています。

みなさんは運動をしていますか？こんな質問をされるとだいたいの方が下を向かれます。私も残念ながら胸をはって答えられません。運動をするとなると何をしようとするか始めるまでにおつくうになる方もいると思います。

すこやかセンターにある介護予防の用具は、誰でも簡単に自宅で1人でもできる用具を展示しています。

足に巻き付けたり手で持って使うトレーニング用のチューブは、強度が強いものから優しいものまであり個人の力に合わせて使用できます。また、見た目のかわいらしいチューブもあります。

家の中でも足を動かす機会を作るための足こぎペダルや、仰向けから頭を起こして行う腹筋運動ができなくても、丸いチューブを押さえることで腹筋運動ができる用具もあります。

すこやかセンターでは、理学療法士や作業療法士が用具の使用方法和合わせて個人に必要な運動の提案も行うことができます。ぜひ、ご活用ください！

理学療法士 竹内 麻菜美



介護予防コーナーの全体写真



トレーニングチューブの使用例



かわいいチューブ



丸いチューブで腹筋運動

4. お知らせコーナー

介護報酬改定について

12月6日(水)に社会保障審議会 介護給付分科会がありました。この会合で、新たに創設する短時間の研修を受ければホームヘルパーでなくても生活援助ができるようにすることが議論されました。

厚労省の案では、生活援助の担い手を育成する新たな研修を受けた人から介護福祉士まで幅広い人材が生活支援を行うようにし、報酬は全て同額にすることです。身体介護に重点を置き、身体介護と生活援助の報酬にメリハリを付けることが明記されました。

このほか、高齢者の自立を支援する取り組みの効果の有無を報酬に反映させる仕組みをデイサービスに導入したり、見守りセンサーを使っている特養を対象に加算の要件を緩和したり、ターミナルケアの実施数が多い訪問看護事業所、看護職員を手厚く配置しているグループホーム、痰の吸引などを行う特定施設を評価します。

また、通所介護事業所を一定期間利用した者のうちADLの維持・向上の度合いが一定水準を超えた場合、新たに評価する。福祉用具貸与価格の上限を設定するなどが議論されました。要チェック！

理学療法士 小森 昌彦

平成30年度介護報酬改定に関する審議報告の概要(案)

社会保障審議会
介護給付分科会
第100回(4/29,12/6) 資料2

団塊の世代が75歳以上となる2025(平成37)年に向けて、国民1人1人が状態に応じた適切なサービスを受けられるよう、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現」、「多様な人材の確保と生産性の向上」、「介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保」を図る。

I 地域包括ケアシステムの推進

■ 中重度の要介護者も含め、どこに住んでいても適切な医療・介護サービスを切れ目なく受けることができる体制を整備

【主な事項】

- 中重度の在宅要介護者や、居住系サービス利用者、特別養護老人ホーム入所者の医療ニーズへの対応
- 医療・介護の役割分担と連携の一層の推進
- 医療と介護の複合的ニーズに対応する介護医療院の創設
- ケアマネジメントの質の向上と公正中立性の確保
- 認知症の人への対応の強化
- 地域共生社会の実現に向けた取組の推進

II 自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現

■ 介護保険の理念や目的を踏まえ、安心・安全で、自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスを実現

【主な事項】

- リハビリテーションに関する医師の関与の強化
- リハビリテーションにおけるアウトカム評価の拡充
- 外部のリハビリ専門職等との連携の推進を含む訪問介護等の自立支援・重度化防止の推進
- 通所介護における心身機能の維持に係るアウトカム評価の導入
- 褥瘡の発生予防のための管理や排泄に介護を要する利用者への支援に対する評価の新設
- 身体的拘束等の適正化の推進

III 多様な人材の確保と生産性の向上

■ 人材の有効活用・機能分化、ロボット技術等を用いた負担軽減、各種基準の緩和等を通じた効率化を推進

【主な事項】

- 生活援助の担い手の拡大
- 介護ロボットの活用の促進
- 定期巡回型サービスのオペレーター専任要件の緩和
- ICTを活用したリハビリテーション会館への参加
- 地域密着型サービスの運営推進会議等の開催方法・開催頻度の見直し

IV 介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保

■ 介護サービスの適正化・重点化を図ることにより、制度の安定性・持続可能性を確保

【主な事項】

- 福祉用具貸与の価格の上限設定等
- 訪問回数が多いケアプランに係る市町村の確認・是正勧奨
- 兼合住宅居住者への訪問介護等に関する減算及び区分支給限度基準額の計算方法の見直し等
- サービス提供内容を踏まえた訪問看護の報酬体系の見直し
- 通所介護の基本報酬のサービス提供時間区分の見直し等
- 長時間の通所リハビリの基本報酬の見直し